

## 平成28年度上水道事業会計当初予算(案)の概要

### I 予算のすがた

収益的支出と資本的支出を合わせた支出予算総額は、前年度比32億52百万円増の1,277億98百万円となっています。

収益的収入が前年度比2億32百万円増の803億44百万円に対して、収益的支出が前年度比10億39百万円減の726億24百万円であり、その結果、純利益は、前年度比9億37百万円増の47億29百万円となります。

(単位:百万円)(税込み)

区 分	28年度 当初予算案 ①	27年度 当初予算額 ②	対前年度比較		備 考	
			増減額 (①-②)③	比 率 ③/②		
収 益 的 収 支	収益的収入	80,344	80,112	232	0.3 %	給水収益 64,030 給水申込納付金 4,322 長期前受金戻入 7,746
	収益的支出	72,624	73,663	△ 1,039	△1.4 %	人件費 5,599 減価償却費 25,684 支払利息 3,179
	収支差益	7,720	6,449	1,271		
	消費税資本的 収支調整額等	2,991	2,657	334		
	<b>純利益</b>	4,729	3,792	937	24.7 %	
資 本 的 収 支	資本的収入	23,989	13,113	10,876	82.9 %	企業債 19,000 国庫補助金 301
	資本的支出	55,174	50,883	4,291	8.4 %	建設事業費 43,338 企業債償還金 11,486
	収支差	△ 31,185	△ 37,770	6,585		
	<b>支出予算総額</b>	127,798	124,546	3,252	2.6 %	

※資本的収支における31,185百万円の不足額は、消費税資本的収支調整額2,991百万円、過年度及び当年度損益勘定留保資金(減価償却費など)28,194百万円で補てんします。

[企業債残高の状況]

平成28年度末の企業債残高は、前年度に比べ75億14百万円増加し、1,548億50百万円となる見込みです。

(単位:百万円)

27年度末残高見込 A	28年度当初予算案			28年度末残高見込 A+D
	借入額 B	償還額 C	差引 D=B-C	
147,336	19,000	11,486	7,514	154,850

## II 主要事業の概要

次期中期経営計画(計画期間：28～32年度 28年3月策定予定)の素案に掲げた3つの基本目標に沿って事業を推進します。

### 基本目標1 「強靱」な水道の構築

#### (1)安定給水の確保

##### ◎水源の安定化

9億73百万円

##### ○ダム建設事業に係る分担金(ハッ場ダム)

9億73百万円

国から暫定的に割り当てられている水源への依存を解消し、安定した自己水源を確保するため、ハッ場ダム建設事業に引き続き参画していきます。

ハッ場ダムの完成によって、より安定的な給水を行うことができます。

工期：昭和42年度から平成31年度 建設事業費の当局負担率3.3%

##### ◎浄・給水場施設の更新・整備

20億59百万円

老朽化が著しい浄・給水場等について、計画的に施設の更新・整備を進めていくとともに、原水水質の変動や悪化に対してもより一層の安全性を確保するとともに、安定した水処理が行えるよう施設の改善を行っていきます。

##### ○ちば野菊の里浄水場(第2期)施設整備事業

19億74百万円

老朽化が進んだ栗山浄水場から、近接するちば野菊の里浄水場に機能を移転し、併せて、高度浄水処理機能を導入するため、施設の本体整備工事に着手します。

整備規模 現栗山浄水場相当の18.6万m<sup>3</sup>/日

事業費 約446億円

施設整備 沈殿池、急速ろ過池、高度浄水処理施設

今後のスケジュール

平成28～34年度 本体整備工事

平成35年度 稼働予定

##### ◎浄・給水場設備の更新・整備

86億60百万円

安全でおいしい水の安定供給に重要な役割を果たしている浄・給水場の設備を中心に、経年劣化等の状況を踏まえた計画的な更新を引き続き実施していきます。

##### ○取水場の設備更新工事

1億71百万円

##### ○浄水場の設備更新工事

53億64百万円

○給水場の設備更新工事

2 7 億 9 6 百万円

**◎管路の更新・整備**

**2 5 6 億 4 2 百万円**

○鋳鉄管更新工事（小中口径管）

1 7 1 億 3 6 百万円

東日本大震災による管路破損等の教訓を踏まえ、湾岸埋立地域の管路の更新を優先的に進めていきます。また、災害時の広域避難所や医療拠点等重要施設へ給水する管路、強度低下のおそれのある管路や赤濁水の発生が懸念される管路などについても更新を優先的に進めていきます。

布設延長 73.0km

○大口径管路更新工事

4 億 8 0 百万円

管径 500 mm以上の高級鋳鉄管を使用した路線について、管体強度、重要度及びバックアップの可否を評価基準とした優先順位を付けて更新を進めていきます。

布設延長 1.0km

○基幹管路の整備（第二北総～成田線）

1 1 億 5 4 百万円

より安定的な給水を確保するため、成田空港に供給している重要管路である北総～成田線について、別路線に新たな耐震管を布設し、二重化による整備を進めていきます。

布設延長 1.7km

○公共関連配水管整備工事

3 1 億 2 0 百万円

外環道や下水道等の公共工事に伴い支障となる既設管路の移設等を行います。

外環道関連工事（布設延長 5.6km:10 億 25 百万円）

下水道等関連工事（布設延長 7.6km:20 億 95 百万円）

○配水管理テレメータ整備事業

7 億 8 7 百万円

給水区域内への適正かつ安定的な給水を確保するとともに、震災時等においても迅速に被害地区を把握し、効率的に復旧が図れるよう、測定機器（水圧計、流量計）の更新・整備を行います。

## (2)耐震化の推進

<b>◎浄・給水場の耐震化の推進</b>	6億68百万円
○浄・給水場施設耐震化工事	6億68百万円
安全でおいしい水の安定供給に重要な役割を果たしている浄・給水場の施設を中心に、耐震診断及び経年劣化等の状況を踏まえた耐震化を実施していきます。	
<b>◎管路の耐震化の推進</b>	218億90百万円
○鋳鉄管更新工事（再掲）	171億36百万円
○大口径管路更新工事（再掲）	4億80百万円
○基幹管路の整備（第二北総～成田線）（再掲）	11億54百万円
○公共関連配水管整備工事（再掲）	31億20百万円

## (3)危機管理体制の充実

<b>◎緊急時に備えた体制の充実</b>	1億7百万円
○危機管理体制の整備	1億7百万円
東日本大震災時の教訓を踏まえ、給水車の更新や応急仮設給水栓の整備など応急給水体制の充実を図るとともに、復旧用資材の備蓄倉庫の増設工事等を行います。	
<b>◎浄水施設の危機対策の強化</b>	43百万円
○浄水施設の覆蓋化【新規】	43百万円
2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を控える中で、懸念されるテロ等違法行為による異物混入などのリスクに備えるため、浄水施設の覆蓋化を推進します。	

## 基本目標2「安全」な水の供給

### (4)安全な水づくり

<b>◎高度浄水処理の拡充</b>	2億97百万円
○ちば野菊の里浄水場(第2期)施設整備事業(高度浄水処理施設分：再掲)	2億97百万円
水質の良好でない原水に対応するため、高度浄水処理システムの導入を推進し、より安全でおいしい水道水を供給していきます。	

## (5)おいしい水の供給

### ◎おいしい水づくりの技術的な取組

76百万円

お客様に安全でおいしい水をお届けするため、水源から蛇口まで一貫したおいしい水づくりを推進します。

#### ○残留塩素の低減化

52百万円

残留塩素は、水道水の安全性を確保するために必要不可欠であるものの、高い濃度では水道水のおいしさを損なうため、きめ細やかな塩素管理が可能な塩素多点注入方式を導入していくとともに、残留塩素濃度低減化試験の実施により、安全を確保した上で多くのお客様が塩素臭を感じないレベルを目指していきます。

- ・船橋給水場次亜塩注入設備の導入
- ・連続測定装置による残留塩素濃度の測定

### ◎安全でおいしい水キャンペーン

12百万円

お客様に、水道水を安心して利用していただけるよう、水道水の安全性やおいしさについての情報がお客様に正しく伝わり、理解していただけるキャンペーンを展開します。

- ・水道出前講座や浄水場見学会等の体験型イベントの開催、利き水体験の実施 等

### ◎お客様とのコミュニケーション

2百万円

お客様との連携・協力を図り、双方向コミュニケーションを充実させるため、お客様の意見・要望を踏まえながら、おいしい水づくりの施策をより良いものとしていきます。

- ・おいし水づくり懇話会の開催、水質検査体験の実施 等

## 基本目標3 お客様からの「信頼」の確保

### (6)お客様サービスの推進

#### ◎「お客様の声」を活かした事業運営

72百万円

##### ○お客様の視点に立った広報

69百万円

水道水の安全性やおいしさ、耐震化・危機管理対策の推進状況等を PR するとともに、県営水道事業全般についてお客様のご理解、ご協力をいただけるよう、広報紙「県水だより」、水道局ホームページをはじめ、新聞、テレビ、ラジオなど各種媒体を有機的に組み合わせること及びターゲットの絞り込み、行事等との連携などを推進し、「伝わる」広報を目指します。

- ・「県水だより」の発行、ペットボトル水「ちばポタ」製造、給水開始80周年記念事業の実施 等

○広聴活動の充実 3百万円

お客様の視点に立った水道事業の運営のためには、お客様の求めていることを的確に把握することが不可欠なことから、お客様から直接ご意見やご要望をお伺いできる機会を積極的に設けて広聴活動の充実を図ります。

・インターネットモニター及び各種イベントでのアンケートの実施 等

◎上下水道料金徴収一元化の実施 27億89百万円

平成30年1月の運用開始に向けて、徴収一元化協議会において、千葉県水道局及び関係4市（千葉市、市原市、成田市及び鎌ヶ谷市）で実務的な調整を進めます。また、お客様への周知を図るとともに、新たな水道料金システムを開発する等、下水道使用料徴収への対応を可能とした上で、上下水道料金徴収一元化を実施します。

なお、未合意7市に対しては、先行4市との具体的な協議結果等を適宜提供しながら、参加を促していきます。

○新料金システム開発運用事業 27億89百万円

使用開始から24年が経過した現行の料金システムの更新と併せて、下水道使用料徴収に必要な機能を付加することにより、上下水道料金徴収一元化に対応できるシステムの構築を進めます。

## (7) 社会への責務及び貢献

◎資源リサイクルの推進 5億円

浄水場の浄水処理工程において発生する汚泥については、セメント原材料等として引き続き、全量のリサイクル化を推進します。

## 運営基盤の強化

◎実践的な技術研修の実施 11百万円

中堅・若手の技術職員を中心に、今日までの80年の歴史に培われた知識や体験を活かした実践的な研修を実施します。

・体験型水道技術研修、大規模施設整備に対応する専門技術研修の実施 等

◎情報化の推進 19億43百万円

水道事業の幅広い分野にネットワークを利用して、情報システムを運用しているため、業務に必要不可欠なものとなっていることから、情報システムの安定運用及び情報資産の安全性・信頼性を確保します。